

令和2年度 後期日程 入学者選抜学力検査問題
和食文化学科 小論文 出題意図・解答例

【出題意図】

ここ3、40年ほどの日本社会では、食品における「自然」「天然」などの考え方が大きく変わってきた。現代では、キュウリは曲がっていることが「自然」であり、販売上の理由からまっすぐなものにするとの考え方は次第に受け入れられなくなりつつあるが、1980年代には、「まっすぐなキュウリ」に代表されるように、制御されることが望ましいことであるとの考え方がむしろ支配的であった。このような自然観の変化を英語の文章や挿絵から読み解き、客観的に論述できるかを問うたものである。

【解答例】

問1 ママ、あのきゅうり曲がっているよ。きっと病気なんだね。(27字)

問2 そうね、きゅうりはやっぱり、スーパーで売られているもののようにまっすぐじゃなきゃね。でも、曲がっているのは病気じゃないのよ。きゅうりをまっすぐにするには、やはり農家の人の努力が要るのよ。(93字)

問3 きゅうりは曲がっていても味が大きく変わるわけでもなく、無理にまっすぐにする理由はない、と答える。

きゅうりをまっすぐにするのは、おもにきゅうりを箱やパックに詰めて効率よく運び、販売しようという生産者や流通業者のニーズによるものである。買い物する消費者にとっても、パックに入れられた商品は買い物かごに入れやすいし、レジ袋にも入れやすいので、安直に考えれば不自由はないと考えてしまう。

しかし、発泡スチロールのトレイに入れられ、上からラップされた商品は、プラスチックの廃棄物をいたずらに増やし、深刻な環境汚染を招いている。もしきゅうりをばら売りし、消費者が自分で準備した袋に入れるようにすれば、プラスチックを減らすこともできて環境の保護にもなるし、まがったきゅうりでも販売できるので農家にとっても無駄ができず好都合だ。

より本質的に考えれば、まっすぐなきゅうりのような農産物を求める心情は、ブドウ品種を種子のないものにしたたり、かんきつの果実にワックスをかけたものを求める心情と同じものである。けれどもその心情は、ほんらい日本人が持ち続けてきた「自然」なもの、「天然」であることを求める心情にはそぐわない。

最近では曲がったきゅうりを裸のまま売っているスーパーマーケット見かけるので、事情はだいぶ変わってきていると思われるが、それでもまっすぐなきゅうりを求める声は依然強い。わたしたちは今一度、野菜など食べるものが何であるかについて深く考え、曲がったきゅうり、種子のあるぶどうなど、より自然に近いものを求めることを考えるときが来ているのかもしれない。